

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウィズ・ユー×モンテッソーリの宮		
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		2026年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2026年2月20日		2026年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	モンテッソーリ教育に基づいた支援を行っている	「子どもは生まれながらにして自分自身を発達・成長させる”自己教育力”を備えている」というモンテッソーリ教育の考え方にに基づき、子どもの主体性を尊重し、自らお仕事(活動)を自己選択できるような環境を整えている。	お仕事(活動)への取り組みや成長と共に変化する個々の興味・発達段階を職員が日々注意深く観察・分析し、その情報をもとに常に子どもたちが「やってみたい!」と自らお仕事に手を伸ばしたくなるような棚づくりを継続する。
2	活動プログラムの立案をチームで行っている	製作プログラム、音楽プログラム、SST等、モンテッソーリ以外の活動についても、定期的なミーティングにて意見交換を行い、子どもの発達段階や課題、興味に応じたプログラムを立案している。	プログラムが固定化しないよう、常に新しいアイデアを発信しやすい柔軟なチームづくりを行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの成長や活動内容の多様化に伴い、限られたスペースの中で安全に活動できる環境づくりが課題	・限られたスペースの中で未就学児と学齢児が同時に活動する時間帯があること ・児童の成長に伴う活動量や必要な環境の変化	棚・机の配置やゾーニングの見直しを定期的に行い、活動内容や年齢に応じた空間の使い分けを工夫する。
2	送迎業務等により時間帯によって支援体制が手薄になる場合がある	・送迎業務の時間帯に複数の職員が事業所外へ出る必要があり、事業所内の支援にあたる職員数が一時的に少なくなること ・児童の利用時間が集中的に重なる時間帯があること ・余剰人員の不足	・送迎時間やルートの見直し、職員配置の工夫 ・送迎対応と事業所内での支援の役割分担の整理 ・人員の確保に向けた採用活動